〔様式第１号〕

# プロジェクト課題活動実績

## 課題名：阿武萩トマト産地の維持・発展

萩農林水産事務所農業部　　チーム員：○塩田拓之、高橋美智子、石津恭子、兼常久美子、大賀玲子

＜活動事例の要旨＞

生産者の高齢化が進む夏秋トマト産地山口あぶトマトの維持・発展及び、法人連合体による新規トマト栽培事業の円滑な運営による地域営農の継続を目指し、活動を行った。

夏秋トマト産地では、部会や関係機関と連携して、就農予定者の就農支援やトマト栽培希望者向けの講座「トマトスクール」を開催した。また、新規就農者の早期経営安定や部会全体への生産安定に向けた取組を実施した。

新規大型園芸施設取組法人に対しては、運営初期段階であることから、生産・販売が円滑に開始されるよう役員との協議や現場の栽培管理担当者への指導を実施した。

### １　普及活動の課題・目標

（１）課題の背景

管内の山口あぶトマト部会高俣支部は生産者の高齢化やリタイアにより、生産者数、栽培面積が減少し、産地の縮小が懸念されている。産地の維持発展のため、新規就農者の確保・育成や、中核生産者の育成、後継者の確保に向けた取組を実施する必要がある。

新規就農者の確保・育成としては、これまで部会や関係機関と連携し行ってきたが、更なる確保のためには、スムーズに地域や部会に入っていける体制と、新規就農者の技術習得レベルに合わせた支援による早期の経営確立が課題となる。

また、産地の抱える生産課題として、夏期の高温による収量・品質の低下や病害の発生、品種に合わせた肥培管理等といった課題があり、部会全体で単収の向上に向けた取組を求められている。

萩アグリ（株）は、大規模環境制御型施設で令和４年に本格的に冬春トマト・ミニトマトの栽培を開始することとしており、出荷体制等の整備支援やトマトの環境制御技術を活用した環境データの活用、病害虫対策等の収益向上に向けた支援が必要である。また、栽培を担う人材確保に向けて、従業員が働きやすい環境を整えることが必要と考えられる。

（２）目指すべき方向性

- 就農希望者の受け入れ体制の強化と新規就農者の早期経営確立による産地の担い手確保
- 中核生産者の規模拡大、後継者支援による山口あぶトマト産地の維持・発展
- 新規トマト栽培の円滑な運営と雇用者の確保による地域営農の継続

### ２　普及活動の内容

山口あぶトマト

（１）担い手の確保・育成

ア　新規就農者受け入れ体制の検討、新規就農者の募集活動

研修生の円滑な就農に向けて、部会、関係機関と連携しながら、就農地の検討や青年等就農計画の作成支援を実施した。

また、産地の後継者確保・育成のため、トマトの基礎知識・技術の習得を目的とした「トマトスクール」を開催した。本スクールには４名の参加があり、全３回の中で、トマト栽培に関する講義のほか、部会生産者の栽培ほ場における実習や選果場の見学など実施し、トマト栽培についての基礎知識や技術の習得を図った。

さらに、ベテラン生産者との交流会や営農に係る個別相談会等も企画し、参加者のトマト栽培に対する疑問点をフォローできるよう工夫した。

表　トマトスクールの内容

| 開催日 | 内容 | 講師 |
|---|---|---|
| 第１回<br>(5/14) | 山口あぶトマトの産地概要（座学）<br>トマト栽培の流れ（座学）<br>土壌・肥料（座学）<br>定植（見学・実習） | JA<br>萩農水<br>萩農水<br>部会 |
| 第２回<br>(7/6) | 収穫・調製作業（見学）<br>選果（見学）<br>病害虫防除・農薬適正使用（座学）<br>部会生産者との交流会 | 部会<br>JA<br>萩農水<br>部会 |
| 第３回<br>(10/18) | 生理障害・病害虫（座学）<br>営農計画・農業簿記（座学）<br>各種補助事業・制度（座学）<br>個別相談会 | 萩農水<br>萩農水<br>萩市<br>萩市、萩農水 |

トマトスクール受講生による定植実習

イ　新規就農者の早期経営確立

新規就農者の定着に向けては就農後の早期経営安定が重要であるため、就農５年目までの新規就農者を対象に巡回栽培指導を実施し、適期作業や病害虫防除等について指導を行った。

また、サポートチームによる巡回を実施し、今年度の栽培・経営に関する課題について新規就農者への聞き取りを行うとともに、作業遅れが発生した新規就農者に対してチェックリストを配布し、作業遅れの要因と対策について自己分析を促した。

ウ　経営発展及び継承の取組支援

既存生産者による規模拡大や継承の可能性について検討するため、ほ場巡回等の際に、規模拡大意向や後継者の状況について聞き取りを行った。

（２）生産安定及び収益性の確保

ア　安定生産技術の確立・普及

高俣支部の講習会や班別研修会などにおいて、栽培管理講習を延べ12回行い、予想される気象状況や病害虫発生状況を踏まえて栽培管理指導を行った（参加人数延べ131名）。

また、夏期の高温による落花や草勢低下に対する課題解決に向けて、高温対策資材の効果確認試験や高温期の着果性が良いとされる品種「麗月」の生育調査を行った。

さらに、病害虫防除所や山口農林水産事務所と連携して、葉かび病・すすかび病の発生状況と薬剤耐性菌の出現について調査を行い、今後の対策等の研修会を開催した。

萩アグリ（株）

（１）新規トマト栽培の円滑な運営

ア　組織体制の確立支援

大規模施設が完成し、１年目の栽培管理となるため、萩アグリ（株）の役員と関係機関が出席するプロジェクトチーム会議等で役割分担や雇用管理などの運営体制、出荷規格・形態等の協議を行った。

また、効率的な生産・出荷に必要な設備等の導入に向けた事業活用の支援や販売するトマトの商品名の商標登録に向けて専門家の紹介などの支援を行った。

イ　生産安定支援

環境モニタリングにより得られた環境データを栽培管理に有効活用するため、従業員自ら行う生育調査や環境制御技術のセミナー受講を提案・支援した。

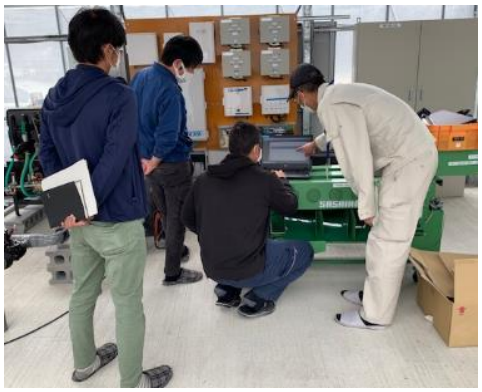
また、ミニトマト栽培では、県が県内企業と共同開発した「ゆめ果菜恵（隔離栽培システム）」や「EVO マスター（統合環境制御システム）」が導入されており、有効な活用を支援するため、月１回、農林総合技術センター等とともにシステムの操作方法や生育・環境に応じた施設管理方法について現地指導を行った。

（２）働きやすい労働環境づくり

ア　雇用促進と継続雇用支援

トマトの本格的な栽培開始に伴い、新たに社員やパートが雇用されたため、作業の効率化に向けて、パート従業員のシフト管理や作業計画の作成などについて、役員や栽培アドバイザーに提案を行った。役員に対しては、組織づくりの参考にしてもらうため、「雇用型施設園芸における組織づくり」をテーマとした研修会への参加を提案した。

ミニトマトの栽培状況



統合環境制御システム操作の指導

## ３　普及活動の成果

山口あぶトマト

（１）担い手の確保・育成

ア　新規就農者受け入れ体制の検討、新規就農者の募集活動

部会員や関係機関の情報共有により、研修生の就農予定地が決定し、令和５年４月の就農に向けて準備を進めている。

部会、関係機関が一体となったトマトスクールの開催により、産地の担い手候補が栽培技術・経営の基礎知識を深められたとともに、参加者同士や部会生産者とのつながりができるきっかけとなった。

イ　新規就農者の早期経営確立

新規就農者の平均単収向上を図ったものの、作業遅れによる管理不足などにより達成できなかった。

一方で、一部で前年よりも単収を約20％増加させた者や次作で栽培面積を拡大する者が出てきている。

ウ　経営発展及び継承の取組支援

規模拡大意向や後継者の状況について聞き取りを行った結果、一部で規模拡大意向や後継者候補がいることが把握できた。

（２）生産安定及び収益性の確保

ア　安定生産技術の確立・普及

資材の試験や品種の生育調査を実施したものの、すぐに普及につながる結果とはならなかった。

一方、産地における葉かび病・すすかび病に対する薬剤耐性菌の状況が明らかとなり、今後の防除対策について生産者へ指導することができた。

萩アグリ（株）

（１）新規トマト栽培の円滑な運営

ア　組織体制の確立支援

組織の役割分担が明確になり、若い従業員がトマト栽培の担当に位置付けられた。

また、事業活用や専門家の紹介などにより、生産・出荷に必要な設備導入やトマト商品名の商標登録が円滑に行われた。

イ　生産安定支援

農林総合技術センター等と連携した現地指導やセミナー受講により、栽培管理担当者が環境制御技術や機器の設定方法について習熟が進んだ。

（２）働きやすい労働環境づくり

ア　雇用促進と継続雇用支援

役員や現場アドバイザーに従業員管理の重要性が認識され、パート従業員のシフト表や作業計画表が作成・共有されるようになった。

## ４　今後の普及活動に向けて

山口あぶトマトについては、引き続き新規就農者の確保・定着を進めるため、部会や関係機関と密に連携しながら、募集活動や就農後の支援を行っていく。

また、安定生産に加え、資材費高騰による収益圧迫の懸念もあることから、栽培技術の確立・普及に加え、低コスト化に向けた対策を検討していく。

萩アグリ（株）については、本格的な栽培開始から１年が経過する中で生じた栽培管理や雇用管理の課題に加え、燃油や資材等の高騰による影響も考慮し、経営計画や作型の検証を行う必要がある。引き続き、経営管理部門と栽培部門の両部門の状況を把握しつつ、課題の解決に向けて提案・支援する。